

医療活動をインターネットで AMD Aが実験中継

茨城 防災訓練現場できょう

し、ヘリコプターや救急車などで現場に駆けつけ救護所を設置する。被災者の応急医療や治療の緊急度別に振り分ける「トリアージ」などを行う。

これと並行して、メンバーのうち12人が、特殊なビデオカメラでトリアージの様態などを撮影、インターネットに送り込む。実験では、同時に大量の情報を送り込めるISDN回線を使うほか、通信網が寸断された場合も想定し、携帯アンテナを使った衛星通信回線の使用も試みる。

AMD Aは昨年から、防災の日に合わせて、東京都や埼玉県の総合防災訓練に参加。AMD Aの構想では今後、こうしたインターネット放送で国内外の被災者と医療チームを取り巻く環境を広く伝え、支援者の理解を深めていく。

茨城県訓練でのAMD A責任者の鎌田裕十朗医師は「国境を超えた活動では通信手段の確保が難しい。現在、各国のNGOが、インターネットの活用方法を模索している。私たちもAMD Aの実情に合った方法を追求したい」と話している。

同県のAMD A防災訓練の中継は31日午前10時～午後0時50分。アドレスは、<http://www.harenet.or.jp/netv/BOSAI/>

世界18カ国に支部を持ち、医療援助や災害救援を展開している非政府組織(NGO)のアジア医師連絡協議会(AMD A、本部・岡山市、菅波茂代表)は、茨城県が31日に行う総合防災訓練に参加し、緊急医療活動の訓練の様態をインターネットで実験中継する。救援活動と併せ、災害の緊急情報を現場から世界中に即時に発信し、現場の実情把握や支援者の理解を求めているのが目的。NGOが、国内外の災害現場で自前の広域放送を行う先駆けとなる。

訓練は防災の日(9月1日)を前に、大地震発生を想定し、同県守谷町で約2000人規模で実施する。AMD Aからは36人が参加